29. 夏型過敏性肺炎の ^{67}Ga シンチグラフィの経時的検討——臨床経過および BAL との比較——

今井　照彦　永野　徳忠　吉本　正伸
尾辻　秀章　西村　幸洋　玉田　俊明
吉村　　均　大石　　元　打田日出夫
（奈良医大・腫放，放）
堅田　　均　渡辺　裕之　鴻池　義純
水本　保子　福岡　和也　藤村　昌史
長　　澄人　阿児　博文　春日　宏友
西川　　潔　成田　亘啓　（同・二内）

夏型過敏性肺炎2例を対象として ^{67}Ga シンチを経時的に観察し，臨床所見，胸部レ線，気管支肺胞洗浄 (Bronchoalveolar lavage, 以下 BAL) と比較検討し，若干の治験を得たので報告する．^{67}Ga シンチは 111 MBq 静注72時間後に撮像し，肺野への集積について検討し，BAL は右中葉枝 B4 ないし B5 を生食 100 m*l* で洗浄し，総細胞数，細胞分画および T リンパ球サブセット CD4/CD8 比を求めた．

両症例とも ^{67}Ga シンチの肺集積は臨床所見，特に PaO_2 低下とよく一致し，胸部レ線上異常がみられない場合でも肺野にびまん性集積がみられ，^{67}Ga シンチは病変の活動性の程度および広がりの指標として，胸部レ線，BAL に比べ鋭敏と考えられた．

BAL のリンパ球比率は臨床上活動期のみならず寛解期においても比較的高値を示し，病変の持続が考えられた．また CD4/CD8 比も必ずしも臨床所見と相関しなかった．

夏型過敏性肺炎は lymphocyte alveolitis といわれているが，今回の経時的な検討では，^{67}Ga シンチの肺集積と BAL リンパ球比率とは必ずしも相関せず，リンパ球の関与のみではないことが示唆された．夏型過敏性肺炎の発生機序に活性化マクロファージが重要であるという報告もあり，^{67}Ga 肺集積の機序については今後さらに検討が必要と思われる．

30. エタノール吸入後の呼吸機能の検討——換気・血流比の変動について——

阿児　博文　春日　宏友　森川　　暁
渡辺　裕之　龍神　良忠　伊藤　新作
成田　亘啓　（奈良医大・二内）
今井　照彦　西峯　　潔　永野　徳忠
吉本　正伸　吉村　　均　大石　　元
打田日出夫　（同・腫放，放）

目的：第28回日本胸部疾患学会総会において，われわれは健常人にエタノールを吸入させると PaO_2 が低下すること，その際 flow volume や肺拡散能の変化をきたさないことを報告した．今回 PaO_2 の低下の機序をさぐる目的で，^{81m}Kr を用いて肺換気・血流比分布の変化を検討した．

対象および方法：対象は健常人10例．検査は坐位にて行った．換気・血流分布は ^{81m}Kr を用い，換気分布は鼻カニューレより，血流分布は左肘静脈内より持続注入して行った．画像データの採取は1フレーム20秒，マトリックス 64×64 ピクセルにて行い，東芝 GMS 55U にて処理した．まず負荷前に動脈血を採取し，換気・血流分布を測定した後，50％エタノール生食水を日商式ネブライザーにて15分間吸入させ，吸入終了直後および15分後に，動脈血ガスおよび換気・血流分布を測定した．換気血流分布の検討は右肺のみで行い，また換気血流比分布の不均等性の指標として，鈴木らの方法に準じ，①変動係数：換気・血流比の標準偏差を平均値で除して％で表した値，② ％0.75：換気・血流比が 0.75 以下の領域が占める割合，を求め，上中下肺野に分けて検討した．

成績：①エタノール吸入後 PaO_2 は有意に低下した．②換気分布は有意の変化を示さなかった．③血流分布は，下肺野において吸入後増加の傾向がみられ，PaO_2 の低下と相関を示した．④ ％0.75 も下肺野において増加の傾向を認めた．

結語：エタノール吸入後の PaO_2 の低下の機序として，下肺野における換気・血流比の不均等分布の増大が関与していることが示唆された．

Presented by Medical*Online